

<概要>

日本の原子力発電規模は、2005年が約4, 712万kWe、2010年が約5, 683万kWeと見込まれている。天然ウラン需要量は、それぞれ約11,100stU₃O₈、約14, 300stU₃O₈と見込まれている。

2003年の日本のウラン需要量は、世界のウラン需要量の約12%を占めた。2010年には世界のウラン需要量の約17%に達するものと予測される。

<更新年月>

2005年08月

<本文>

わが国の天然ウラン需要見通しを表1に示す。日本の原子力発電規模は、2005年が約4, 712万kWe、2010年が約5, 683万kWeと見込まれている。これに対応するウラン需要量は、それぞれ約8, 500tU（11,100ショートトンU₃O₈）、約11,000tU（14,300ショートトンU₃O₈）と見込まれている。また、ウラン累積需要量は、2005年、2010年において、それぞれ約19.7万tU程度、約25万tU程度と予想されている。

2003年の日本のウラン需要量は、世界のウラン需要量の約12%を占めた。2010年には世界のウラン需要量の約17%に達するものと予測される（表2参照）。

わが国は、これまで長期購入契約などにより約20万tU（262,500stU₃O₈）を確保してきているが（表3参照）、今後のウランの需要量を確保するためには、なお一層ウラン資源の安定確保に努力する必要がある。

<関連タイトル>

[ウラン生産国と資源状況 \(04-02-01-06\)](#)

[日本のウラン必要量と必要量を確保する手段 \(04-02-01-08\)](#)

[世界のウラン資源量と需給予測（レッドブック2003） \(04-02-01-07\)](#)

[ウラン粗製錬 \(04-04-01-01\)](#)

[世界のウラン製錬施設 \(04-04-01-05\)](#)

<参考文献>

(1) 日本原子力産業会議（編）：原子力ポケットブック2005年版（2004年7月）、p.186

(2) OECD/NEA, IAEA: Uranium 2003: Resource, Production and Demand, OECD (2004), p.50, p.160

表1 わが国の天然ウラン需要見通し

(単位: stU_3O_8)

年度	原子力発電開発規模	年間需要量	累積需要量
平成17年 2005年	約4,712万kWe	約11,100	約255,700
平成22年 2010年	約5,683万kWe	約14,300	約324,400

[出典]日本原子力産業会議(編):原子力ポケットブック2005年版、(2004年7月)p.186

表2 世界における年間ウラン必要量

(単位：トンU)

	2002年	2003年	2005年	2010年		2015年		2020年	
				低ケース	高ケース	低ケース	高ケース	低ケース	高ケース
日 本	7,840	8,380	10,850	11,820	11,820	NA	NA	NA	NA
世 界	66,815	68,435	70,600	70,605	73,280	76,705	84,410	73,495	86,070

NA: Not available

[出典] OECD/NEA, IAEA : Uranium 2003 : Resources, Production and Demand, OECD(2004)、
p.50、p.160

表3 わが国のウラン購入契約状況

(単位:stU₃O₈)

購入契約形態	相手先国	契約数量
長期契約、短期契約 および製品購入	カナダ、イギリス、南アフリカ、オーストラリア、 フランス、アメリカ 等	約262,500
開発輸入分	産出国ニジュール(注1)、カナダ(注2)、 オーストラリア(注3)	約61,200
	計	約323,700

(注1)海外ウラン資源開発(株)は、Cominak(アクーダ鉱業(株))に25%を出資しており、ニジュール産ウランを日本の電力会社に供給している。

(注2)海外ウラン資源開発(株)の100%子会社であるOURDカナダ社は、マックリーンレイクJ/Vの権益7.5%、ミッドウエストJ/Vの権益4.5%を持ちカナダ産ウランを日本の電力会社に供給している。

(注3)日豪ウラン資源開発(株)は、ERA社の権益10%を持ちオーストラリア産ウランを日本の電力会社に供給している。

[出典]日本原子力産業会議(編):原子力ポケットブック2005年版、(2004年7月)p.186